

令和3年度決算の概要

私立学校は、建学の精神にもとづき、教育研究活動を永続的に行っていくことが求められており、そのために、営利を目的とする企業会計とは異なり、学校会計では、安定した運営が継続できるよう、長期的な収支の均衡が要請されています。

また、経常費補助金を受けている私立学校は、学校会計基準に従った会計処理を行い、ここに掲げた計算書類を作成しなければなりません。

令和3年度の鉄鋼学園の決算について概要をお知らせします。

貸借対照表は、年度末における法人の資産総額と、それが借入金などの負債や自己資金である基本金、および内部留保である繰越収支差額からなりたっていることを表しています。令和3年度末の資産総額は、57億8,200万円で、前年度より1億3,700万円減少しました。固定資産のうち、建物などの有形固定資産では、減価償却による資産の目減りや償却完了した機器備品の除却などで4,400万円減少しました。特定資産（積立金）も空調工事などの財源として取崩したため2,200万円減少しました。流動資産では、未収入金が大きく減少しました。

負債は、流動負債の未払金などの減少により、負債全体で、前年度より1億1,500万円減少しました。

基本金とは、学校が継続して教育研究活動を行っていくために、必要な土地・校舎・設備などを、自己資金により取得した資産の総額のことです。第1号基本金とは、土地、建物、設備などの金額で、今年度は、空調設備やネットワーク、クラウドシステムの更新などにより、8,900万円増加したことになっています。繰越収支差額は、前年度より1億1,000万円減少して3億300万円の収入超過となっています。

資金収支決算書は、その年度の教育・研究活動や管理運営などに伴う資金の用途と、これに対する資金の収入、調達のすべてを明らかにしたものです。令和3年度決算では、学費、補助金収入や、前受金収入などに前年度からの繰越資金を加えた資金収入総額が、24億5,400万円になりました。資金収入の総額から人件費、物件費・設備投資支出や積立金への積立て支出などを差し引いた後の次年度への繰越資金は、前年度より3,400万円減の9億1,600万円になりました。この金額は、貸借対照表の流動資産中の現金預金の額と一致することになります。

事業活動収支決算書は、企業の損益計算書にあたるもので、収支状況を、経常的なものと臨時的なものに区分し、さらに経常的収支を、教育活動と教育活動外の金融収支とに分けて把握できるようになっています。全体として、基本金組入（設備投資）前の収支バランスがどうかをみます。令和 3 年度は、学費、寄付金、補助金収入などの経常的な教育活動収入は、前年度より 1 億 2,900 万円減の 10 億 7,200 万円でした。

一方、人件費や物件費などの経常的な教育活動支出は、前年度の学生寮の取壊し費用がなくなったため、前年度より 1 億 1,500 万円減の 11 億円となり、教育活動に伴う経常的収支は、2,800 万円のマイナスとなりました。利息収入などの教育活動外収支を加えた経常的収支は、2,200 万円のマイナスになります。これに、資産売却時の臨時的な収支が加わり、令和 3 年度の基本金組入前の当年度収支差額は、2,100 万円のマイナスになりました。

この計算書では、単年度収支から、いわゆる設備投資にあたる基本金組入額を控除した後の基本金組入後の収支をみます。当年度の設備投資は、空調設備やネットワーク、クラウドシステムの更新など 8,900 万円ありました。

前年度からの累積収支差額は、プラス 4 億 1,500 万円あり、この額から上記の単年度赤字 2,100 万円をマイナスし、さらに基本金組入額をマイナスした当年度末の累積の収支差額は、プラス 3 億 300 万円となりました。